

## 会議録

会議の名称	西東京市公民館運営審議会平成17年度第12回定例会
開催日時	平成18年3月15日（水曜日） 18時30分から20時30分まで
開催場所	田無公民館 第2学習室
出席者	副会長：野間春二 委員：細井邦夫、濱崎昌子、柳澤英之、下栗庸隆、冨澤佳代子、伊波真貴子、森忠、石橋いづみ、紺野和子、遠山久敬、奥田泰弘 職員：島崎館長、近藤事業係長、伊佐分館長、長谷部分館長、玉木分館長、香坂分館長、小林分館長、藤森公民館主事、村上公民館主事
欠席者	武田雅子、木村俊二
議題	(1) 第11回定例会会議録について (2) 報告事項 1. 行政報告 2. 事業計画・報告書について 3. 公民館だより編集室報告 4. 公民館・図書館整備懇談会報告 5. その他 (3) 協議事項 1. 平成18年度西東京市保谷公民館事業計画 2. 公民館市民企画事業実施要綱（案） (4) 次回の日程について
会議資料の名称	(1) 事業計画書 1. 子ども陶芸講座（住吉） 2. 東京音頭ロックを踊ろう！（住吉） 3. 働く人のための「初心者陶芸教室」（芝久保） 4. 幼い子を育てている女性の講座「仲間の中での子育て」（芝久保） 5. 谷戸まつり（谷戸） (2) 事業報告書 1. 乳幼児を持つお母さんのための講座 第10期（保谷） 2. 遊ぶ・学ぶ・つながる（保谷） 3. 寄席囃子と太神楽 伝統芸能の世界（保谷） 4. 花のギフトボックス（保谷） 5. 教育講演会「思春期の子どもが教えてくれること」 6. 幼い子を育てている人の講座 7. 自己表現講座「江戸芸かっぽれ」（芝久保） 8. 同級生を空襲で亡くして（芝久保） 9. アフリカン・パーカッション体験（谷戸） 10. 英語で読むSusan Sontag「Why are we Kosovo?」（谷戸） 11. 暮らしの中の電磁波から身を守る（谷戸） (3) 西東京市公民館市民企画事業実施要綱（案）

記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input checked="" type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>(1) 第11回定例会会議録について ※会議録について確認</p> <p>(2) 報告事項</p> <p>1. 行政報告</p> <p>○館長： 1回定例会市議会が3月1日から29日の会期で開催中だ。市長の施政方針の中に、保谷駅の公民館・図書館建設の内容が含まれており、懇談会を開催して、市民・利用者の意見を聞く機会を持つことが示されている。施政方針を受けた代表質問は既に終了し、公民館に直接関係のある質問はなかったが、生活者ネットの子育て支援関係で、ノーバディパーフェクトプログラムの質問があった。これは、完璧な親なんていないんだという趣旨のプログラムだそうで、子育て支援課への質問であったが、教育委員会も関連して回答を求められたため、公民館では保育室オープンデーをとおして、楽しく子育てを行える環境を作るための努力をしていること、学校では子ども自身が身を守るプログラムについて教育長が答弁した。</p> <p>2. 事業計画・報告書について</p> <p>○委員： 芝久保の初心者陶芸の参加費が1千円と安価な割りに、5つもの作品を作ろうとしているが、大丈夫か。興味を持たせるという意味で、安いに越したことはないと思うが。</p> <p>○職員： 公費で負担する部分もあり、可能である。</p> <p>○委員： 保谷の花のギフトボックスであるが、初めての参加者が4割もいたという報告がある。気軽に参加できる雰囲気だ公民館を知ってもらえる良い機会だったと思う。休日に行ったことも功を奏した理由だと思う。今まで来たことのない人に対する取り組みについては今後も続けてほしい。</p> <p>○委員： 保谷の女性講座は、28回にも及ぶ長期のものである。担当者の評価欄には、夏休み中の自主保育についての記述もあるが、どのような様子であったか。</p> <p>○職員： 幼稚園児を持つ保護者の関係で、夏休み時期になるとどうしても講座も夏休みにしなくてはなくなる。この間40日の長期におよび、せっかく保育室に慣れた幼児たちが保育室を忘れないように、受講生たちの発案で自主的な活動を行った。受講生は2組に分かれて、5人程度で保育を行い、残りのメンバーは話し合いを行った。自分の子ども以外の子を面倒を見る良い機会になった、との報告があった。</p>	

○委員：

講座終了後のグループ化についてはどうか。

○職員：

既に自主サークルも立ち上がり、公費保育の申請も済ませている。

### 3. 公民館だより編集会議報告

○委員：

3月号の反省。サークル訪問の折りづるの会の写真が暗くなってしまった。

1面の団塊世代の地域デビューの記事により、田無カレッジに対する質問が多くあったということである。

4月号の1面は谷戸まつり。サークル訪問は田無の粘土工芸「あむあむ」。見開きの余白については、三多摩テーズの「公民館は住民の自由なたまり場です」を掲載した。

なお、2月号で掲載した芝久保の小さな展示会「吉田拓郎展」であるが、わざわざ静岡から見に来た人やタクシーを使って来た人もいたという報告があった。

○副会長：

見開きのキャッチコピーは、毎号変わるのか。

○委員：

現在検討中である。

○委員：

休館日を掲載するようにしたが、何か反応はあったか。

○職員：

特に大きな反応はない。

○委員：

3月号に公民館の配置図が掲載された。転入の多い時期に新住民にとってはタイムリーだったと思う。

○委員：

保育室オープンデーは、毎月全館で行っているのか。また、これらの名称は、自主グループの名称か。

○館長：

保育室のない住吉を除く5館で行っている。17年度は試行事業としてほぼ月1回のペースで開催した。公民館ごとの名称であり、サークル名ではない。毎回かなり多くの保護者が申込みを行っている。改めて、子育てに悩みを持つ親が多いことに気付かされた。

○委員：

公民館を地域配置していることに対して、最もそのメリットを生かせる事業だと思う。人数に制限を設けているようだが、保育室がなくても、他の部屋を開放してでも、無制限に受け入れるくらいの機会を作っても良いと考える。

○館長：

どこの館の保育室も50平方メートル程度の広さのため、どうしても親子10組程度の制限を設けざるを得ない。

○委員：

依然、川崎市の事業を見学に行った。そこでは、小さな小学校の体育館ほどのホールで、公民館職員だけでなく、保健所の保健士や保育園の保育士も招いて、来る者は拒まずに事業を行っていた。参考にしてほしい。

○職員：

新しいコーナーとして、公民館を知ってもらうコーナーを設けたいと考えている。今日は委員の意見を聞きたい。

例えば奥田委員にお願いして「公民館Q&A」とか、または公運審委員が学習会に参加した際の報告などを交代で掲載してもらうことなども考えている。

○副会長：

公運審の活動の様子や公民館大会に参加した際のレポートなどを書くことについてと思うが、意見を述べてほしい。また、奥田委員のコーナーは、毎号掲載ということか。

○委員：

掲載についての依頼は受けており前向きに考えたいが、記事の内容について誰が責任を持って行うのかを確認しないと書けない。例えば、次の号に書く項目や内容まで私が責任を持って書かなければならないのか、編集会議から指示された内容について書くのか。また、他の委員の研修録が掲載されるということになると、それとの交互なのか、それとも両方掲載なのか。

こういうテーマで書いてほしい、ということを書いてくれると書きやすい。

○委員：

公運審の活動についてを知らない市民が多い。早くスタートを切ってほしい。

○委員：

「公民館Q&A」なのか「公運審Q&A」なのか、それを判断するのは編集室だと思う。掲載の回数や、連続なのか隔月なのか、細かい編集方針を示してほしい。さらに、内容についても方針を示してほしい。

○副会長：

編集委員と奥田委員との間でクリアする内容が多いようである。その内容について詰めた上で、再度報告してほしい。

○委員：

大きなテーマについてまず決めるべきと思うので、お願いしたい。

○副会長：

編集室において、結論を出してほしい。

#### 4. 公民館・図書館整備懇談会報告

○委員：

2月17日に開催された。

保谷駅前公民館の件と、既存の建物のリニューアルについてを議論したが、今回は、既存施設の問題が中心になった。現在、住吉公を除けば、古さの上では中央図書館・田無公民館の建物のリニューアルが急務である。ただし、そのための予算がついた上での検討ではないので、想定の前での構想をまとめた。

施設面では、現在地下1階に駐車場があるが、そこを部屋にして面積を広くする。2階の屋上部分を庭園化する。機械室や倉庫が点在しているが、それらを統合することで、無駄なスペースをなくする。

機能面であるが、地下1階にある保育室は、2階に持って行き明るいスペースで保育を行いたい。逆に、地下には事務室などの管理施設を配置して、利用者スペースを1階以上にする。また、ロビーを保谷公民館のように広く使えるようにしたい。

最終の会議は、3月30日に予定しているが、教育長に対して報告書を提出できるよう努力している最中だ。

#### 5. その他

○副会長：

谷戸まつりについて、本日追加資料が配られているので、説明してほしい。

○職員：

本日、第18回谷戸まつりのプログラムを配布した。4月号の日より1面に掲載する。また、市民向けのチラシについては、来月の公運審の席でも配布したい。

本日にこぎ着けるまでの実行委員会の席には、武田会長と富澤委員が熱心に通ってくれた、感謝申し上げたい。田無の時代には、谷戸公民館にも公運審があったので、当然のように公運審委員の関わる部分が多く、その力は大きかったように思う。現状では谷戸の公運審は存在しないわけだが、その代わりに2人の委員が実行委員会に参加してくれたことで、大所高所からの意見ももらえたとし、実行委員と公運審委員の橋渡しを行ってもらえたことは収穫であった。

今後とも、実行委員会のメンバーとして参加してもらおうということだけでなく、公運審委員の立場として、この事業への意見を加えるという立場で参加をお願いしたい。

4月の実行委員会では、具体的な役割について決定することになる。

○副会長：

当日は、見学や飛び入りの手伝いということで、多くの委員に参加してほしい。次に、都公連総会について事務局から報告がある。

○職員：

18年度の都公連総会が4月19日に東大和市で開催される。代議員制なので、この中から2人の代議員を選んで、当日は参加してほしい。職員も各館から1人と館長が代議員として参加する。議決権はないが、傍聴者として参加することは可能である。

○委員：

代議員の2人については、正副会長にお願いしたい。あとは自由参加ということかどうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○副会長：

他に提案がなければ、異議なしとの声もあるので、そのように決したい。

○委員：

委員部会から報告がある。次年度の小金井での都公連大会の大会テーマについて、各市の考えを報告することになっている。本日の会議が終了後に、有志は残ってほしい。意見をまとめたい。

○副会長：

そのようにお願いしたい。

○委員：

わからないなりに1年間公民館だよりの編集委員を務めてきたが、利用しているサークルのメンバーから公民館についての苦情を聞くことがある。例えば、なぜ公民館には洋式のトイレがないのか、今は高齢者ほど洋式を望むのに設置数は少ない。または施設のバリアフリーについての意見も聞くこともある。あるいは、部屋の確保についての意見など、こうした要望をこの会議のどの場面で述べたらいいのかを確認したい。

○館長：

日常的に意見を聞くことはあると思う。そのために利用者懇談会を開催して、市民の意見を聞く機会を設けているが、3月の参加者は大変多いが、秋の懇談会は総じて少なく、話し合いにならずに終わってしまうこともある。

今のような意見については、日常的に受け付けるので、いつでも話しに来てほしい。

○委員：

職員と市民とのコミュニケーションの不足があるのではないか。地域や施設内容によっても悩みは違うと思う。西東京市は狭いようだが、市民の意識も地域によって異なるということだ。利用者懇談会をうまく使う工夫もほしいが、日常、職員がいつでも意見を受け入れるという態度が必要だし、そうあってほしい。

次回からは、その他の項目のときに、発言のできる機会を設けてほしい。そのことで、内容が議事録に残るということも大切なことだと思う。

○職員：

参考までにこの会議の運営について述べたい。正副会長と事務局の間では、会議の1週間前に、次回の会議内容について打合せをしている。議題を決めることと、2時間の時間の配分について、ある程度の予想を立てている。

突発的に審議しなければならないことが起こるのは仕方がないことと思うが、日常的なことであれば、委員各位が正副会長または事務局に議題に乗せてほしいこと、という趣旨で申し入れた方がスムーズだと思う。内容によっては議題に取り上げるだろうし、程度によっては館長が直接答えてすむこともあると思うが、いかがか。

○副会長：

次回以降の課題としたい。

○委員：

例えば、洋式トイレがなぜないのか、といった意見は大変勉強になった。会議で発言するということが、他の委員にとっては必要なことではないのか。そのために、「その他」という議題があるのではないか。

市民にすれば、公運審委員に伝えれば館側に伝わるという信頼感や安心感をもたれるということも必要かと思う。そのことを市民が実感できれば、公運審を知るという絶好の機会だと思う。

○委員：

先日、国分寺の公運審が視察来館した際に同席し、公民館職員が作った資料の配布を受けた。合併してここまでの間の流れやメリット・デメリットなどが記載されていた。他市の委員に配布した資料でもあり、ぜひ同じものを配布してほしい。参考になると思う。

○職員：

資料は、配布するだけで参考になるものと、説明を加えないと理解できないものがあると思う。先日の資料は、研究会等で説明用に作ったものであり、そのままを全員に配っても消化不良になると思う。

資料の配布については、館長とも相談をしながら、取捨選択をさせてほしい。

### (3) 協議事項

#### 1. 平成18年度西東京市保谷公民館事業計画

○館長：

既に事業計画書としては、18年度の事業も報告案件として提案しているが、年間計画としてはこの資料がトータルなものとなる。個別の館の事業は分館長から説明させたい。事業方針のみ私から説明する。

事業方針については、前年のものの表現を変更したが大きな変化はない。前文は、朗読をもって説明としたい。

(前文朗読)

年間活動目標と事業計画の項の変更は加えていない。

重点事業について説明する。

昨年度までは「青少年の居場所」についての事業を掲げていたが、これを「団塊の世

代」の事業に改変した。もちろん、青少年関連事業はこれまでどおり継続していく。

人口の5パーセントといわれる団塊の世代を18万市民に当てはめると、9千人の退職者が地域に帰ってくることになる。これらの方々への取り組みの必要性を感じ事業化することとした。まずは、現職の市民を対象とするために、平日の夜間や土日にも講座を開講していきたい。また、団塊の世代には、さまざまな知識を持つ方が多いといわれている。これらの方々地域で活躍できる機会をコーディネートできるように研究したい。

障がい者学級の充実は、従来どおり継続とした。現在行っている3公民館が連携して、事業を展開したい。

3番目の地域づくりを考える事業についてだが、分館の立地条件によって特徴ある運営に心がけたい。まつりなどを通じて交流を図る館もあるし、サークル活動が閉鎖的にならないように、サークル間の交流、市民どおしの交流を支援していきたい。

#### ○職員（保谷公）：

2006年度の保谷公民館は、より地域に根ざした活動と保谷公民館を利用するサークルの融和を目指して事業展開をしていきたい。具体的には、都営住宅の自治会との共催事業や利用サークル同士が公民館事業に関われるような協力依頼をしていきたいと思う。

さらには、これまで公民館に縁遠かった年齢層の住民にも、講座に参加するチャンスを検討したい。具体的には、若い女性や青年層に限定した事業を組んでいきたい。

継続的な事業としては、知的に障がいを持つ人を対象にした「くるみ学級」と子育て中の保護者に学習の場を保障する「保育室の運営」をメインに考えている。どちらも福祉施策でなく、公民館ならではの社会教育の場として、構成する青年や預かる子どもたちの人権を第一に考えて活動を続けたい。このために職員、嘱託員、ボランティアスタッフが一体になってその運営を考えるべきと思うので、公運審委員にもぜひその現状を確認してほしい。

#### ○職員（田無公）：

田無公民館では今年度、「仲間作り」をメインテーマに、障がい者学級「あめんぼ青年教室」を始め15本の各種講座を実施する。

障がい者学級では、仲間作りという点では、30年の実績から大きな成果をもたらしているが、今年それをさらに発展させ、自分たちで活動ができるようプログラムを構成する。このほかの青年期教育では、若い人を対象に食事の大切さを学習する「料理教室」を開催、ボランティア講座では、昨年同様創作を主体に障がい者・高齢者の理解への第1歩を踏み出したい。

成人期教育では、女性問題講座や環境講座を組みたい。公民館もISOの対象施設として4月からスタートするため、環境講座もその視点で実施したい。団塊世代を対象にした講座や、人気の高い田無カレッジの開講、地域交流事業として、サークル見学会の開催など積極的に地域との関わりが図れるような取り組みを進めていく。

また事業ではないが、ロビーの改修を引き続き行い、より快適に公民館が利用できるよう環境の整備にも取りかかりたいと考えている。今年の田無公民館はチョッとスペースの効いた活動を展開する。

#### ○職員（芝久保公）：

今年度は、直面する1つの課題と中長期的な2つの問題をテーマに掲げたい。



直面する課題とは、2007年問題のことで、公民館の問題とともに、国策上の社会問題として、産業構造、技術の伝承、社会保障の問題でもある。対象者をどれだけすくい上げることが可能か、会社人間から地域デビューの契機、お手伝い、情報提供も含め考えていく。具体的には、団塊世代対象講演会、芝久保公民館で地域デビュー、シニアクラブ、雑学教室などだ。

中長期の問題とは、少子高齢化と環境問題。少子高齢化が進み、合計特殊出生が現状で推移すると、いずれは日本の人口は0になる可能性もある。もう1つは京都議定書にうたわれている地球温暖化対策、二酸化炭素の削減等の環境講座を実施したい。具体的には、保育事業、幼い子を育てている人の講座、教育講座である。また、市民講座の中で、エネルギー問題、緑の保全、景観問題などを市民の企画提案を受けて事業展開したい。

○職員（谷戸公）：

谷戸公民館は、18年続く谷戸まつりを核とした強固な地域との連携協力を基に発展してきた。

地域住民は「公民館まつり」ではなく「地域のまつり」という強い信念を持っている。11月からの準備期間を含めた公民館としての対応が、地域や利用者の公民館への評価・職員への評価につながってくる。このことは、年間をとおした公民館事業全てに影響を与えており、まつりを基に公民館と地域・利用者との連携、協力・理解を強くしている。

新年度事業については、現在の社会における話題・問題をテーマにした社会知識の習得を始め、団塊世代の問題では谷戸まつりへの参加の取り込みを考え、公民館への理解を促します。環境問題としては生活の中にある身近な問題を捉えていきたい。

谷戸公民館の特色である視聴覚教育では、市内谷戸町在住の佐藤純彌監督作品の上映会を催し、できれば直接話しを聞く機会も設けたい。ここでも、地域性を生かした努力をしていきたい。

○職員（住吉公）：

2年後の公民館移転を控え、実施講座の参加者も増加の一途であり、以前にもまして近隣住民の学習意欲は高まってきている。企画の意図が常に問われており、地域性のある、地域と密着した事業展開が求められているといえる。

18年度事業は、農業講座と地方財政講座を軸として、公民館でしかできない講座を目指したい。また、6館の中でただ1つ保育室のない館だが、保育室がない分、かえって自由に幼児と親が協同する講座も可能だ。障害のある子どもも自由に参加できる陶芸講座は大変好評で、18年度も継続したい。

新しい取り組みとしては、環境講座で田無・住吉の2館が合同で実施する。このことで、両館利用者の交流と講座終了後のサークル設立を考えている。

施設の特徴である、福社会館、障害のある子どもの保育施設との併設状況を生かして、乳幼児から働いている人、障害のある人から高齢者に至るまでの世代間交流の活性化を図り、幅広い講座を提供していきたいと考えている。実施時間も、少しでも多くの市民が参加しやすいように、夜間あるいは休日に設定し、その時々タイムリーな講座も企画していきたいと思っている。

○職員（ひばり公）：

2006年度のひばりが丘公民館は、利用者のニーズに沿った地域に密着した活動と、公民館と利用団体とが共同して、地域で学習することでの円滑な事業展開を図っていきたい。

主催事業では、主に児童・女性を対象にした「手話」や「手工芸」「健康体操」といった日常的な活動を基本にして、公民館を媒介に広く学習・交流のできる場をつくるよう考えている。

また従来より取り組んできた事業は、昨年度で5年を経過し、当初の目的は達成されたと思っている。今年度は講習会の割合を大幅に削減し、パソコンを目的としてではなく、手段として使うために、地域にある素材をいかした「ものづくり講座」に着手していく計画で進めている。

○副会長：

この場で具体的な発言・意見も必要だが、次回以降の会議でもぜひ話題にしてほしい。

○委員：

去年から課題にしている書式の統一についてだが、「市民との協同等」の区分の「支援」市民文化祭への会場の確保や備品の提供についてだが、保谷公民館にはあって田無にはない、依然として書式の統一が不徹底である。田無公民館においても協力を惜しまないでほしい。

青少年の居場所の問題について言えば、具体的な事業が少ないという印象だ。

## 2. 公民館市民企画事業実施要綱（案）

○副会長：

3月8日の市民説明会の資料とともに、前回のこの会議で資料要求のあったこれまでの改正点についてのポイントを資料配布されたので説明を求める。

○職員：

2枚目資料を使って説明したい。下線部分に変更を加えた部分である。

第2の事業目的だが、市民から意見を元に変更を加えた。

第3についても、懇談会で出た意見を取り入れて、担当職員で話し合った。12月に提案したものは、多くは手引きに書いて要綱はかなりシンプルなものにしてしたが、それらを案文の中に戻した。

第5の期数も、使う団体のことも考えて、当初の2期から4期に戻した。

第8の講師料は、講演する内容によって金額が違っていたが、理解されない部分もあったので、一律に25,000円以内とし、館と団体とで話し合うことにした。

全体の文言の整理については、公運審の意見を元にして、職員が検討した。

最も意見が集中している第10の企画提案会についてだが、この要綱によって行われる事業がよりよいものになるために、企画のPRと多くの意見を取り入れる機会にしたい。この間の懇談会でも上がっているが、団体にすれば、報告会に加えてさらに1度負担がふえた訳で、この会を本当に有意義なものにしないと事業全体の趣旨が薄れてしまう。次回の市民説明会でもこの点が焦点になると思うが、「企画提案会」という名称にはこ

変わらず、今後も市民の意見をうまく取り入れていきたい。

○委員：

このところの説明会でも、企画提案会についての意見が集中している。公運審の中でも出ていた意見であるが、この会議に出席できなかった団体に対しての出立てについては考えているのか。

○職員：

市民からは、この会議に出席できなければ事業として認めてもらえなくなるのではないかという質問が出ていたが、これに対しては、もしも仮に誰も出席できないようであれば、職員が代わって説明をするということも検討しているという回答をした。

○委員：

この要綱案は、いつ頃までにかためるのか。また誰に決定権があるのか。これらの改廃についても確認したい。

○館長：

いつから施行するということについては、まだ決めていない。大半の合意が得られれば、年度途中にでも新しい要綱で事業をスタートすることも可能だ。

要綱の決裁権限は教育長にある。教育長決裁が得られれば、新要綱は施行される。その場合でも、新要綱の周知期間は必要なので、早くても18年度の中盤以降ということになるだろう。

○委員：

期限を決めていないという発言だが、そうすると、現要綱を改正する必要性が薄れるのではないかと考えるが、いかがか。

○館長：

改正の必要性については、第2の事業の目的にも掲げているが、地域社会の創造を目指し、多くの市民と団体に事業に参加したり、よりよいものにしてもらうための工夫として企画提案会を新しい考えとして取り入れている。ご存知のとおり、公民館事業にも厳しい目が向けられている。公の機関だからこそできる事業にこだわり、目を向けていきたい。またそのことの普及・啓発を取り組んでいきたい。

社会教育委員の会議からも、公民館事業全体が趣味、教養講座に偏っていないか、という指摘を受けている。

○副会長：

3月23日にイングビルで、第8回の市民説明会が予定されている。できるだけ多くの委員にも出席してほしい。本日はこの程度にしたい。

(4) 次回の日程について

○副会長：

次回の日程を確認する。

4月19日（水曜日） 午後6時00分 田無公民館 第2学習室

○職員：

5月の定例会だが、日にちを変更しない限り、田無公民館のサークル見学会とバッティングする。日にち優先だと、場所の変更が必要だ。  
（「日にちを優先してほしい」と呼ぶ者あり）

○副会長：

日にちを優先したい。会場は保谷公民館とする。

○委員：

田無公民館の隣に体育館が完成した、現在公民館の駐輪場は大変狭い。隣の駐輪場は、いつから使えるようになるのか。公民館の駐輪スペースもあるのか。

○職員：

担当課と折衝をしていないが、できるだけ早急に使えるように確認したい。

○副会長：

これにて、本日の会議を散会する。